

1. 調査報告概要表

作成日 2007年10月24日

【評価実施概要】

事業所番号	2670700281
法人名	有限会社アテナメディカル
事業所名	洛和グループホーム常盤
所在地	京都市右京区常盤草木町9-8 (電話) 075-871-1908

評価機関名	市民生活総合サポートセンター		
所在地	大阪市北区天神橋2丁目4-17千代田第1ビル5階		
訪問調査日	平成19年9月21日	評価確定日	平成19年11月26日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	13	年	12	月	20	日
ユニット数	1	ユニット	利用定員数計	9	人		
職員数	9	人	常勤	6	人	非常勤	5
			常勤換算	7.5	人		

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000~80,000円	その他の経費(月額)	28,000	円
敷金	有() 円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円)	有りの場合 償却の有無		有(無)
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,666	円	

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9	名	男性	0	名	女性	9	名
要介護1	1	名	要介護2	4	名			
要介護3	2	名	要介護4	2	名			
要介護5	0	名	要支援2	0	名			
年齢	平均	83	歳	最低	73	歳	最高	97

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	洛和会丸太町病院 和行丸太町クリニック
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

洛和会ヘルスケアシステムの中のグループホームです。当該グループホームは、静かな住宅街に民宿を改造した形で建てられています。駅からも近く、スーパーや学校に隣接し、地域との交流が盛んにできる場所にあり、入居者は地域の一員としての生活が確立されつつあります。居室はそれぞれ配置やドアの形態が異なっていたり、表札にも特性があり、1階のリビングや台所もごく普通の家庭にある間取りで、「施設」といった雰囲気が無く、家庭的です。ホーム内の段差や階段は、入居者のリハビリにつながっており、生活レベルの低下は少ないとのこと、どの方も年齢より快活な雰囲気が伺えました。また、ホームの職員と入居者の会話が大変和やかで、自然な落ち着いた表情で生活されています。常に入居者のペースで一日が流れ、一人ひとりの生活歴や尊厳を大切に、いつもリビングに集まって団欒されている様子から、ホームの理念として掲げている「その人らしく よりそって」を実践できているホームと言えます。現状に満足することなく、常により良いサービスにする為の研修や研鑽・会議を重ねるなど、向上心の高さを感じられます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の結果や改善点について十分な理解を示し、ミーティングで話し合いを重ねながら、より良い方向への取り組みがすみやかに、検討・改善されています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	昨年の外部評価の結果を踏まえ、ホーム独自の理念を作成し、リビングの見やすい場所に掲示しています。またサービスの質の確保や向上を目指し、ホームとして大切にしていきたいことや、その実践について話し合いの機会を設け、前向きに取り組んでいます。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	自治会長・民生委員・福祉職員・社協会長・ケアマネージャー・家族・入居者等、広域な分野から関係者が集まり、ホーム側の積極的な姿勢がメンバーの参加意欲へと反映されています。それぞれの管轄からの意見を大切に、関係を密にしていくなど、地域交流に結びつける取り組みがなされています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年2回ホーム便りの発行、毎月の生活状況や行事の様子を出納帳と共に手紙にして家族に送付しています。また、日々の様子や行事の写真をアルバムにして居室に置き、いつでも閲覧してもらえるようになっています。家族の意見や苦情については、意見箱を設置し、職員に周知・徹底を行い、年に2回満足度アンケートを実施して結果を必ず日々のケアに反映する仕組みが構築されています。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目⑥	町内会に入会しています。回覧板を回したり、夏祭り・地蔵盆・運動会等、自治会主催の行事に盛んに参加し、地域住民との交流を深める取り組みがなされています。今後はボランティアによる音楽会に地域の方を招待するなどして、ホーム内の生活を理解してもらい、気軽に出入りできるきっかけをつくることで、さらに地域に密着したグループホームへの発展が期待されます。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム独自の理念「支え合い共に生きる」、「その人らしく よりそって」を掲げて、入居者の集まるリビングにわかり易く掲示されている。住み慣れた地域での安心した暮らしが提供できる理念をくつりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員それぞれが理念をいつでも確認できるように、カードにして名札に入れている。管理者は会議や日々のケアの中で職員に理念に基づいた話をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会している。回覧板を一緒に持っていったり、夏祭り、地藏盆、区民運動会など、自治会主催の行事に盛んに参加し、地域住民との交流を深める取り組みがなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価の結果を踏まえ、ホーム独自の理念を作成し、見やすい場所に掲示している。またサービスの質の確保や向上を目指し、ホームとして大切にしていきたい事、その実践につなげる検討を会議で行い、前向きに取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、自治会長・民生委員・福祉職員・社協会長・ケアマネージャー・家族・入居者等、広域な分野の関係者が集まり、ホーム側の姿勢がメンバーの参加意欲に反映されている。それぞれの管轄からの意見を大切に、関係を密にしているなど、地域交流に結びつける取り組みがなされている。		

洛和グループホーム常盤

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	右京区・ケアマネージャー連絡会議や事務局会議に参加し、グループホーム・特養・老健の連携をスムーズにして、サービスの向上を目指している。各施設の課題や問題点への取り組みを聞くことは、気づきにもなり、質の向上への意気込みにもなっており、有意義な会議を重ねることができている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年2回ホーム便りを発行している。その他毎月の出納帳送付時に、個人の栄養摂取・バイタル・排泄状況、生活や行事の様子等を担当が手書きした手紙を添付している。また、行事や日々の様子を撮った写真をアルバムにして居室に置き、いつでも閲覧してもらえるようになっており、職員が一緒に説明・報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者に変化があった場合は、電話や手紙を送り、面会時は必ず話をしている。意見箱を設置して意見があれば職員全員に周知し、話し合いを行っている。年に2回満足度調査のアンケートを実施して、結果を必ずケアに反映するようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者として、働きやすい環境を意識している。新任の職員にはできるだけ入居者との関わりを多く持てるように配慮している。異動前の混乱や動揺を避ける為、事前に公表は行わず、1週間の引き継ぎ期間を設けるなど自然な交替ができる態勢をとっている。現在のところ、過去にダメージを示す入居者はおられなかった。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や介護者の年間研修計画が密に立てられている。各能力ごとに、なるべく多くの職員が参加できる機会が設けられ、それぞれ丁寧な報告書が作成されている。	○	数多くの研修に参加し、職員育成に努力されていますが、会議等で研修内容を報告し、職員全員に浸透させる伝達研修の機会を作れば、報告書の閲覧以上の成果が期待できるのではないのでしょうか。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	右京区連絡会・グループホーム協議会の親睦会を通して、管理者の良い意見交換会の場になっている。意見は持ち帰り、サービスに反映させている。また勉強会や交流を持つことにより、サービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族にホームを見学してもらい、家族からの情報提供を大切にして、職員との信頼関係作りにつなげている。また、居室には馴染みの家具や物品の持ち込みを依頼し、家族が泊り込んだり、気軽に面会できる雰囲気づくりに配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の献立作成や料理・盛り付けを分担して行ったり、洗濯や掃除・買い物等、できることに参加してもらい、家事の要領を職員が入居者から学べる場面を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式によるアセスメント用紙を活用し、入居者の要望や思いを日々のケアの中で常に職員間で話し合い、共有する努力をしている。	○	従来のセンター方式を改良した形で、24時間ケア記録用紙を作成中である。これにより、アセスメントの分析がよりスムーズにわかり易く職員に浸透することができ、今後のさらなる発展を期待する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月3件のカンファレンスを行い、家族には電話や面会時、本人には聞き取りで意向を確認し、相談しながら作成している。	○	計画書に家族と本人の希望を記載する欄がないので、別々に欄を設けることが望まれます。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族や職員・医師との情報共有を行い、常に現状を把握し、変化があれば随時見直しを行っている。変化がない場合も1ヶ月、3ヶ月を目途に評価と共にアセスメントとも照らし合わせて見直しを行っている。		

洛和グループホーム常盤

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	馴染みの美容院への送迎や、かかりつけ医への通院付き添い、墓参り、家族との外食等、本人の希望があれば可能な限り支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回往診があり、受診が必要な場合は協力医療機関に通院している。丸太町病院との関係については、家族・本人に了承を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う意志確認書を作成し、看取り指針については家族に重要事項説明書と同時に説明している。また家族が集まる機会に、今後の対応について不安があれば相談にのる態勢が整っていることを示している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに合った言葉がけや、誇りを損なわない言葉遣いに細心の注意を払い、お互いに声かけをするなど、プライバシー確保の徹底に取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の希望や、その人の言動を受け止め、入居者一人ひとりの生活リズムに合わせて生活できるように支援している。散歩や入浴時間は可能な限り本人の希望に添ったタイムスケジュールになるよう柔軟に対応している。		

洛和グループホーム常盤

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立づくり、食材選び、調理、片付けまでを共に考え、入居者の意志を大切にしながら進めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人が希望する日、時間に入浴を行っている。基本的には午後からになっているが、希望があればいつでも対応可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	編み物・裁縫・貼り絵や歌など、入居者の経験や今ある力を発揮できる場面づくりを支援している。歌のレッスン・華道教室等、先生の指導を受けながら、負担にならない程度に役割や楽しみごとを利用者と相談しながら行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ほぼ毎日散歩に出かけ、ドライブや買い物、喫茶外出、花の水やりなど、その日の天気や一人ひとりの気分に応じて、外出の支援を積極的に行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。職員は拘束についての理解を深め、意思統一を図っており、見守りや近くの交番への声かけを行っている。	○	帰宅願望が強い入居者の見守り方法について、話し合いの機会を設け、徹底した見守りの連携が構築することを期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の消防訓練と、2ヶ月に1回のホーム内での訓練を行い、入居者と共に行っている。	○	地域の方の協力依頼については、今後の取り組みの課題であり、次回の運営推進会議で話し合い、協力を呼びかける予定になっている。

洛和グループホーム常盤

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取状況を毎日チェック表に記録し、全員の栄養摂取量を把握している。また、栄養士からのアドバイスがもらえる様に記入用紙のフォーマットを改正する考えを進めている。毎日の職員の検食表には、必ず所見を記入するよう指導している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	階段の昇り口にソファを設置したり、玄関やリビングに季節の花や折り紙を飾っている。テレビやステレオの音量は自然に入ってくる程度に配慮し、廊下に「ときわ文庫」を設けて自由に読書を楽しんでもらうなど、居心地のよい暮らしの提供ができています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や仏壇、物品が配置され、写真や絵を飾って一人ひとりの好みや生活スタイルに合わせた空間づくりに配慮されている。		